



電機連合  
公認

# ひらどこうた 『平戸航太』を 全力で応援します!

本年7月に施行予定の第27回参議院議員選挙において、電機産業で働く仲間の平戸航太さんが全国比例区から挑戦することとなりました。平戸さんは長崎の伊王島で生まれ、高校時代に母をガンで亡くし、ガンで苦しむ人を救いたいと猛勉強して、九州大学大学院から日立製作所に入社してガンで苦しむ人を救うため粒子線治療装置などを開発。その後、地方の声や、子育て世代の苦労が政治に反映されていないと、政治の道を志しています。森しげゆきは平戸さんを全力で応援します。

平戸航太  
3つの政策

電機産業の力で魅力あふれる未来をつくります

- 科学技術やデジタル化の進展で産業の成長をけん引し、社会課題を解決します
- カーボンニュートラルによる持続可能な社会を実現します
- 付加価値の適正循環（適正取引、価格転嫁など）に取り組み、産業の発展に貢献します

誰もが心豊かに働き、成長を実感できる職場をつくります

- 心の豊かさを実感できる、ライフスタイルにあった働き方を実現します
- 多様性が尊重される環境づくりを進めます
- 電機産業の発展を支える人材の育成と環境整備に取り組みます

将来にわたって安心して暮らすことのできる社会をつくります

- 国民の不安を払しょくし、持続可能な公的年金制度を実現します
- 子育て支援策を拡充し、すべての子どもの育ちを社会全体で支えます
- 大学など高等教育の経済的負担を軽減します
- 現役世代の過度な負担を軽減し、手取りを増やします



37歳

- 1987年7月…長崎市伊王島生まれ
- 2012年3月…九州大学大学院工学府 機械工学専攻 修士課程修了
- 2012年4月…株式会社日立製作所 入社
- 2023年6月…こくみん政治塾 入塾
- 2023年11月…国民党千葉県第7区総支部総支部長に就任
- 2024年10月…第50回参議院議員選挙に挑戦 5万1749票を獲得するも次点
- 家族…妻、2人の子ども
- 趣味…サッカー、マラソン、格闘技観戦、読書
- 座右の銘…好きこそ物の上手なれ、縁の下の力持ち

## 森しげゆきプロフィール



- 経歴：
  - 1966年9月  
秋田県男鹿市生まれ（58歳）
  - 1985年4月  
NEC（日本電気㈱）入社
  - 1992年～2002年  
日本電気労働組合役員として活動
  - 2002年12月  
連合神奈川・相模原地域連合事務局長
  - 2007年4月  
相模原市議会議員 初当選
  - 2011年、2015年、2019年、2023年、  
5期連続当選
- 趣味：スポーツ全般（特にラグビー、サッカー）、料理、旅行
- 特技：書道、釣り、野菜作り
- 家族：妻、長女・長男は結婚して独立

相模原市中央区上溝在住。

相模原で暮らし、相模原で働いて40年！

森しげゆき後援会入会のすすめ

後援会会則（抜粋）…本会は、市政の発展と市民生活の向上のために尽力している森しげゆき氏の政治活動を支援することを本来の目的とし、あわせて会員相互の親睦を深めることを目的とする。※入会金、会費はいただけません。ご入会は電話やメールでも受け付けています。

連絡先

森しげゆき後援会事務局

相模原市中央区下九沢1120 電話 042-770-5241

E-mail:mori-shige@mori-shige.jp



後援会議資料

相模原に  
未来の  
あ

トライ  
try!

事務局：相模原市中央区下九沢1120 電話 042-770-5241 発行責任者：大岩 凌



# もりもり通信 Vol.35

2025年5月発行

相模原市議会議員（中央区・無所属）  
森しげゆき 市議会レポート

市議会3月定例会議一般質問報告  
『平戸航太氏』との連携・支援  
詳しくは2～4面をご覧ください

## 緊急提言 相模原駅北口の スタジアム構想について

### 『市は市民の意向に応えられるか！』

令和7年3月21日に行われた市議会本会議での一般質問で、森しげゆきと市の議論で、大切なまちづくりが市民の意向にそぐわない方向に向かおうとしていることについて、以下の通り課題提起をいたします。

#### 相模原駅北口地区をめぐる経緯

米軍基地相模総合補給廠は、先人の努力もあって平成26年に道路用地と相模原駅北口に隣接する15haの土地が日本に返還され、現在は国が管理している。この土地を相模原市が使用するためには都市利用計画書を国に提出し、市へ有償での払い下げといわれている。市は有識者で組織する「相模原駅北口地区土地利用計画検討会議」に諮り、令和4年に土地利用方針がまとめられ7つの案を提示し、市民の意向調査を行ったが、市民アンケートでもオープンハウス形式のまちかど調査でも、7割～8割の市民が多機能複合型のスタジアムを求めていた。また、多



くの市民団体が協力し、スタジアム整備を求める10万人署名を集め、市長に提出している。市は最終的にスタジアム構想も含めた3つの案に絞り、昨年7月から民間事業者たちにまちづくり実現性の提案募集を行っていた。

#### 相模原駅北口の スタジアム構想について

私は、これまで何度も議論をしているが、今回の議論で明らかになったことは、スタジアム構想に関しては民設・民営が大前提ではあるが、民間事業者に提案募集をかける直前に市が『土地の取得も求める条件』を提示したこと。これは、全国的にも例がなく（通例は市が土地の無償提供を行うか定期借地契約となる）異例のことであると考える。結果的に民間事業者は土地取得計画を立てられないまま民設・民営でのスタジアム整備の提案を行ったものの、土地を取得する内容ではなかったことから、土地利用計画検討会議に『スタジアムの整備の提案はなかった』と報告する方針とのこと。これが本当に正当なものなのか疑問

である。また市の答弁で、保険や金融など業務系の企業誘致を中心に考えていることだが、現時点では誘致活動をしていない現状も場当たり的といえる。

#### スタジアムの必要性について

相模原市にはサッカー、ラグビー、アメフトの4つのホームタウンチームがあり、現在は相模原ギオンスタジアムを拠点としているが、4つの競技の試合が重なるため、ホームゲームすら地元で開催できない現状や、サッカー場としてはJ1リーグに昇格できない仕様であるという問題がある。また、陸上競技場として整備されたのに、陸上競技の大会が誘致できない現状にある。また、スタジアムはスポーツだけではなく、音楽イベントやコンベンション機能、貸会議室やブリーフィング、防災の拠点など様々な用途に使える、市民が求めるものと合致する。相模原にこれまでなかったような商業施設とスタジアム、併せてホテル誘致のもたらす効果は、相模原駅周辺の飲食店の活性化や小田急多摩線延伸の起爆剤になることは明らかで、今後の相模原市の対応が注目される。そして何よりも、市民の意向を反故にするのかが問われている。市は市民の意向に沿って、できない条件を提示するのではなく、どうしたらできるかを模索するのが最低限の役割だと考える。今が正念場だ。

# 相模原市議会 令和7年3月定例会議一般質問報告

## 相模原駅北口の スタジアム構想について

ホームタウンチームサポーターや市民団体が協力して集めた「スタジアム整備を求める10万人署名」、市民意見アンケート、街角でのオープンハウス形式の意向調査、いずれも賑わいづくり・スタジアムを求める意見が圧倒的多数だったにもかかわらず、市民の意向と違った方向に向かおうとしていることについて市長の考え方を伺う。

土地利用計画の検討にあたっては、これまで署名活動やアンケート、オープンハウス等でいただいた様々なご意見を受け止め、「土地利用計画の方向性」において、スタジアムを含む土地利用のケース示した。その後実施した民間提案募集において、民設民営のスタジアムの提案がなかったことから、今後、学識経験者等からなる「相模原駅北口地区 土地利用計画検討会議」にその旨を報告し、同会議の意見を踏まえて、土地利用計画の策定に取り組んでいく。

スタジアム整備には多額の費用がかかるため、民間参入が必要なのは理解する。相模原市でもPPP、PFIの流れが根付いてきたが、なぜこのスタジアム構想だけが土地の取得も含めた民設民営にこだわるのか理解できない。将来的開発も含めて、市の土地として定期借地契約をする方が将来も有利だと言われているが、見解を伺う。

昨年7月より実施した民間提案募集は、民間活力を最大限に生かした土地利用を想定して実施したもので、提案の条件として、昨年5月の府議において市が整備するのは道路、公園、駅前広場とし、それ以外の施設は、市は土地を取得せず、整備も行わないこととしたものだ。

これまでに全国で整備されたスタジアムで、公の土地を民間が取得した事例はあるのか、具体例を伺う。

過去Jリーグに所属するクラブのホームスタジアムでは、公有地を民間企業が取得し、スタジアムを整備した事例は承知していない。

相模原駅北口地区のまちづくりについては、業務系企業誘致を中心に考えていることだが、現在相模原市内には業務系企業の本社・支社が存在しない中、誘致の見込みがあつての考え方を伺う。



現時点では、誘致活動を始めていないが、民間提案募集では、例えば、ロボットや航空・宇宙といった市内に集積している産業に関連する企業の進出を見込んだ提案をいただいた。

スタジアム構想については民間募集をしたが、全国的にも例がない公共の土地を取得し整備するという提案がなかったわけで、民設民営の提案はあったと伺っている。それを、土地利用計画検討会議に「提案がなかった」と報告するのは違和感でしかない。市民の意向に沿ったものにするためにどうするか考えるのが市の役割であり、今後の進め方について再考を求める。

## 市職員の人材について

かねてより市は『適材・適所』という言葉を使うが、仕事に必要だと独学で猛勉強し、一級建築士を取得した職員がその年に異動となる事例が複数あり、また管理職（部長・課長）が、これまで一度も業務経験のない部署に異動ってきて、部下職員から困っているという声を聞く。適材適所の考え方を問う。

人事異動については、人事部門における各部署へのヒアリングにより、事業の進捗状況等を的確に把握するとともに、職種や知識、経験のほか、在籍年数等も踏まえた上で行っているが、一方で、個々の職員の意向や状況に沿うことができない場合もある。可能な限り各部署や職員個々の状況に応じた適切な配置に努めしていく。

これから「行かない市役所」、「書かない窓口」の取り組みが進んでくると、市役所の窓口業務が減ってきて、デジタルによる手続きをサポートするデジタルに詳しい職員が必要になる。リスクリング（学びなおし）をして、必要な部署で仕事ができるような取り組みを求めるが、見解を伺う。

急速に進むデジタル化等により、業務が大きく変化する中にもあっても、職員が常に新しいことを学ぶ姿勢を持ち、柔軟に対応していくためには、リスクリングの取り組みは重要であり、活用を検討していく。

## 救急医療について

年末年始の救急車の出場が多く、医療機関に10台もの救急車が滞留したという話を聞いたが今年は、インフルエンザと新型コロナウイルスの感染症が同時に流行し、年末年始に救急出場が集中したと思うが、件数及び特徴を伺うとともに、医療機関がひっ迫した状況だったと考えるが、救急車が滞留した際、どのように対応したのか。

本年度の年末年始の救急車平均出場件数は185件となり、例年と比べ、著しく増加している。特に、本年度は、119番通報が特定の時間帯に集中したため、一時的に救急車が不足する事態が発生した。また、医療機関に救急車が滞留した際には、医師等に救急出場がひっ迫している状況を説明し、傷病者の速やかな受入を依頼するなどの対応をした。

市民の多くの命を救うために必要な二次救急、三次救急医療機関について、現状で充足しているかを伺うとともに、今後、医師の働き方改革に配慮が必要という状況

の中で、救急医療を担う医療機関や、医師・看護師の方々の確保についての考え方を伺う。

本市では、市病院協会や救急応需病院などの協力により、現状においては、体制を確保できている。一方で、救急医療を担う医師の確保が厳しいと伺っていることから、医師の働き方改革に伴う影響など実情を把握、引き続き、国や県へ働きかける。

茨城県では昨年12月から救急搬送における選定療養費の徴収を開始した。選定療養費とは、もともと大病院に患者が集中しないように、紹介状を持たない患者から別途徴収する医療費で、茨城県では救急車の適正利用に向けて、救急車を呼んで医療機関を受診した場合、明らかに軽症で救急車が必要ではなかった場合に選定療養費を徴収することとした。本市においての考え方を伺う。

他自治体の一部の病院において、緊急性が認められない救急搬送者から選定療養費を徴収していることについては、制度上、想定していないとの見解が国から示されている。本市としては、引き続き、#7119の周知や上手な医療のかかり方の普及啓発に取り組むとともに、医療関係団体の意見を伺いながら、救急医療体制の確保に努めていく。

## 学校給食の安全性について

最近、子供たちのために安全な食事でなければならない給食に、異物が混入するという事案が3件立て続けに発生している。例えば中学校給食において、18校もの中学生が主菜なしで、ブロッコリーやキャベツなどの副菜でご飯を食べた。中には、主菜がないご飯を食べられなかつた子どもがいるのではないかと思う。異物混入による提供中止は的確だったが、予備おかず等を用意しておくべきだったので



はないか。今後の対応について伺う。

異物混入により給食の提供を一部中止した場合のふりかけ等の提供については、喫食の可否について、食物アレルギーのある児童生徒の保護者に対する丁寧な確認など課題があるから、引き続き、課題等を整理しながら異物混入が発生した場合の対応について、検討していく。

子どもたちが楽しみにしている給食でこのような事案が多くあることは、学校という公共で安心して食べられるという前提を覆すことになる。これまで慎重な対応をしているとは思うが、改めて、安全に楽しく美味しい給食にするための環境づくりについて、教育委員会の見解を伺う。

学校給食については、安全安心で児童生徒にとって魅力あるものとすることが大変重要であると認識している。そのため、国の学校給食衛生管理基準を遵守し、調理施設や調理工程等における衛生管理を徹底することにより、異物混入リスクの更なる低減を図るとともに、児童生徒が心待ちにするような給食提供に取り組んでいく。

## TOPICS

### 森しげゆき議員

電機連合議員団総会で幹事長に再任される



全国の電機産業（日立、Panasonic、富士通、三菱電機など）出身の地方議員が組織する電機連合議員団会議では2月7日に総会が開催され、現在、幹事長（代表）を務める森しげゆき議員が幹事長に再任されました。引き続き100名近い全国の議員の取りまとめ役として働きます。

### 吉沢恋（ここ）選手

相模原市6人目の  
ホームタウンアスリートに認定



3月31日、パリ2024オリンピックにおいて、スケートボード女子ストリート競技で金メダルを獲得した相模原市在住の吉沢恋（ここ）選手が、このたび6人目となる相模原市ホームタウンアスリートに認定されました。吉沢選手は4月から高校生となりますます活躍が期待されます。

### 中谷潤人選手

ボクシングWBC  
世界バンタム級王座防衛



3月29日、WBCボクシング世界バンタム級チャンピオンで相模原市在住の中谷潤人選手が、王座3度目の防衛を果たして、相模原市役所で報告会を行いました。今後、日本人同士の王座統一戦や、その先のモンスターとの対戦も含めて意気込みを語っていました。新愛称の『ビッグバン』も良いですね。